

第 37 回

「奈良県医師会透析部会」奈良透析学術総会が 2 月 3 日(日)に奈良県文化会館 2F 小ホールにて開催されます。

当院からは、臨床工学科 重村 真琴 技士が学術発表を致しますのでご紹介します。

透析搔痒症にポリメチルメタクリレート膜（PMMA膜）を使用することで明らかな
改善を認めた1例

医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾

重村真琴¹⁾ 麻野秀人¹⁾ 上西大輔¹⁾ 北村充吉¹⁾ 野口 幸¹⁾

青木昭美²⁾ 田宮正章²⁾ 吉岡伸夫²⁾ 高比康臣²⁾

【はじめに】透析患者の搔痒症にPMMA膜の有効性が報告されている。今回PMMA膜を素材としたBG-PQ膜を使用することで搔痒感の改善を認めたので報告する。

【症例】72歳女性。主訴は全身搔痒感。糖尿病性腎症にて2011年4月より維持透析中。2012年2月に搔痒感が出現、6月頃よりに症状が増悪しVAS（Visual analogue scale）で10点であった。透析条件は、QB230mL/min、ダイアライザーはAPS-15SA、3時間透析で、血液検査はBUN61.0mg/dL、Kt/V1.1、Clear space 55.4%であった。ナルフラフィン塩酸塩を投与したが改善を認めず、更に透析中の不穏も出現したので、ダイアライザーをBG-1.6PQへ変更した。導入1か月後にはBUN50.4mg/dL、Kt/V1.52、Clear space 73.3%となった。またVASは1点まで低下、更に透析時の不穏が消失した。

【結語】PMMA膜の効果は物質の吸着と素材の生体適合性である。今回、ダイアライザー変更後、明らかに血液データと透析効率が改善し、搔痒感が低下したのはPMMA膜の特性によるものと考えられた。